



## おんせん県おおいたとは…

香川のうどん県に続いて、うっかり名乗ってしまい、全国の温泉地に論争を巻き起こした。

大分県民は、県庁がそんなハイカラなことをすることに驚き、他県に恐縮し、さらに、日常にあることが当たり前の温泉が、県の魅力になることに驚いた。

この命名は、県民自身が、温泉の価値を再認識する良い機会になったと思います。皆様も是非大分の温泉をご堪能下さい。

### 第31回日本緑内障学会 会長より



私は福岡の生まれで、大分には時に遊びに来ていましたが、住むのは大分大学に赴任してからです。住んでみて、大分にはすばらしい自然と温泉があり、さらに食も抜群であることを実感しています。大分には「大分の二度泣き」という言葉があります。「大分へ転勤」と言われて、大分に飛ばされるのかと一度泣き、次の転勤辞令のとき、こんなに素晴らしい「大分に別れ」を告げなければならない、ということで二度泣くといえます。ここまでの感覚は実際に住んでみないとわからないことですが、仕事を辞めてから余生は大分で過ごすのもいいかもしれません。

温泉を楽しみながら。

大分大学医学部眼科教授  
久保田 敏昭

第31回日本緑内障学会 副会長より



私は別府生まれの別府育ちです。18歳で熊本大学に入学して下宿するまで、お風呂は沸かすものだとは知りませんでした。というエピソードをお話すると、皆さまから本当に驚かれます。

もちろん子供時代に旅行に行ったこともあります。下宿先で“由布子さん、最後に入ったらガス栓を閉めに行っておね！”と言われた日に“現実的”にお風呂はガスなどで沸かすものなのだ！と納得しました。そのくらい私にとって温泉は当たり前のことだったのです。

大抵、町内に一つ市営温泉があり自宅に温泉がない人たちは朝夕お風呂セット(昔は洗面器とタオルや石鹸など...)を持って寝間着姿で温泉に入りに行きます。これも当たり前の風景でしたが、よその土地では見かけないものでした。道路から湯気が出ているのも当たり前、硫黄臭いのも当たり前、いつでもお風呂が熱いのも当たり前...そんな当たり前が大変贅沢なことだと身を以て知ったのは再び別府へ帰って来て開業してからでした。

別府に生まれたことをとても自慢に思っています。だって日本各地のどこの温泉に行きたいとは一度も思わなかったのですもの！神様に感謝です！別府温泉へどうぞ！

大分県眼科医会会長  
大藪 由布子

大分県眼科医に聞きました!!

おすすめ温泉ランキング!!

ランキングなのに、全部が1~3票で見事にバラバラ。様々な温泉がある大分県ならではの珍事です。



～ 観光客におすすめ ～

湯布院(由布院+湯平)  
山荘無量塔  
亀の井別荘  
由布院 玉の湯  
夢想園(空海の湯)

別府市

別府温泉保養ランド  
ひょうたん温泉  
別府桜湯  
杉乃井ホテル(棚湯)  
鉄輪温泉エリア  
明礬温泉エリア

九重町

壁湯天然洞窟温泉

竹田市

長湯温泉(ラムネ温泉・御前湯)

大分市

明野温泉 良の湯「舞千花」  
CITY SPA てんくう



～ 自分が好きな温泉～

湯布院(由布院+湯平)  
湯布院全部

別府市

杉乃井ホテル(棚湯)  
ひょうたん温泉  
明礬温泉エリア  
鉄輪温泉エリア  
鉄輪温泉 谷の湯  
しんきや旅館  
別府海浜砂湯

由布市

おさるの湯  
竹泉

院内町

妙見温泉

九重町

壁湯天然洞窟温泉

竹田市

七里田温泉「下湯」  
長湯温泉(ラムネ温泉・御前湯)

県外の皆様が利用しやすい由布院・別府を中心にレビューします。

## 由布院温泉



18世紀、フランス、マリー・アントワネットの時代。豪奢で華やかな宮廷生活に疲れた貴族は、あえて田舎風の農園と素朴な小屋を(莫大な金額で)再現し、庶民の素朴な生活の中に、心の安寧を求めたという。湯布院にも御三家(亀の井別荘、玉の湯、山荘無量塔)をはじめ、金額的に高級に属する宿があるが、古都の料亭宿の格式、美味、外資系のラグジュアリーホテルの豪華さを期待して行くと肩透かしに合う。温泉湧出量、源泉数は別府に次いで全国2位だが、泉質は単純温泉・アルカリ性単純温泉が多く、湯巡りには向かない。

50年前、何も無い地方の温泉地だった湯布院が生き残るために、ドイツの保養地を参考に目指したもの。それは、鄙の魅力、親戚の家の離れに長期間泊まるような温かさ、素朴さ、見えない贅沢。

湯布院100年の街づくりを先導した玉の湯の創業者の「静けさと、空間と、緑が大切だ…」という気づき。

由布院のシンボル由布岳、朝霧立ち込める金鱗湖。何気ない雑木林も、田んぼの真ん中に木を生やすための土壌改良(のための土を採る土地を買うところ)から始まって今がある。

さあ、昔の貴族のように、心を癒やしに湯布院に行こう。

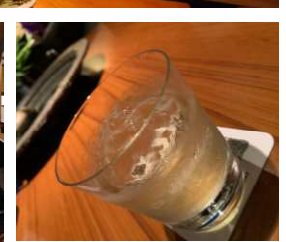
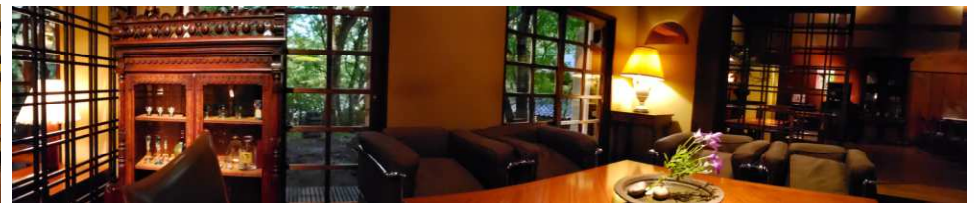
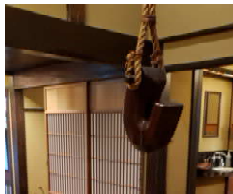




## 1. 山莊無量塔<sup>むらた</sup>

由布院御三家。湯布院で最もブランディングに成功した宿。

宿のみならず、美術館、チョコレート、蕎麦、ケーキ、高速のサービスエリアまで無量塔(むらた)BRANDである。宿に着くと通されるTans barでは、真っ赤な100年前のアメリカ製巨大劇場スピーカーが威容を誇り、重厚なクラシックを奏でる。いきなり日常から異世界にタイムスリップ。チーズケーキはアールグレイの香り。部屋は全室離れ。大浴場はない。何故なら、全部屋温泉付きで、50坪と最も広い「明治の別荘」には2つも温泉がある。もちろんかけ流し。ベッドルームも2つ、和室も2つ、フリードリンクの冷蔵庫も2つ、広いリビングに、ミニキッチン、囲炉裏の間もあり、何処に落ち着けば良いか迷う。北陸から移築した明治時代の別荘丸ごと客室である。極太の梁に旧家の歴史を感じる一方、完璧にリノベーションされており、デザイナーズマンションのようなお洒落で目を引く家具が不思議と融合する。由布院には珍しい？分かりやすいプロ意識の高い宿だが、接客は近所のお兄さんのような素朴な親しみ。食事もインパクトはない。ただ、夜のTan's barは都会でとんでもない価格の銘酒がグラスで破格値で頂ける。フロントに頼んでおくと、系列店の、由布院で行列有名度No.1のB-speakのロールケーキも並ばずお持ち帰りできる。





## 2. 亀の井別荘

由布院御三家の中で、最も歴史があり、金鱗湖に近い。

早朝、食事前に、完璧に整えられた鄙びた庭を通り、金鱗湖へ。静寂。観光客のいない、本当の湯布院を独占できる幸せ。夜は、煉瓦造りの談話室で100年以上前の蓄音機で、昭和初期のSPレコードをリクエスト。バッハの無伴奏チェロ組曲は、まるで蓄音機の中に奏者がいるような臨場感。

離れと本館洋室からなる客室は、小ぶりのかけ流しの温泉、上質な家具、行き届いた掃除は感じるが、御三家のインパクトはない。食事繊細、大浴場もガラス張り天井が美しいが、最近の派手で広く新しい驚きのある、分かりやすい高級宿から見ると、物足りなさもある。

こちらの素晴らしさは、親戚のような素朴な温かさのスタッフ。受付で左利きで記帳していると、自然に食器が左利き用に配膳されている。別府・由布院温泉の父、油屋熊八翁から別荘開設を任された初代が理想とした「特別な日常ではなく、あらまほしき(こうありがたい)日常」。100年以上たった今も、この精神が息づいており、長く日常として逗留したくなる宿である。





### 3.玉の湯

由布院御三家。亀の井別荘の主人とともに、由布院を作り上げた。

虫の声、木陰、陽の煌き、玉の湯が築き上げた雑木林には、子供の頃に身近だった懐かしい自然がある。運が良いと、落ち葉の上をカサカサと駆け抜けるイタチまで！田舎の由布院だから当たり前？いいえ。元は木のない田んぼの真ん中。ここに玉の湯50年の情熱を注いで作り上げた自然の生態系がある。

部屋は掛け流しの温泉、こじんまりしたベッドルーム、部屋食ができる座敷、大分和牛、季節のすっぽん料理（隣町の名物）。派手さはない。特等席は、雑木林を向いたガラス張りのテラス。虫の音を聞きながら日が落ちるまで読書。実家のように落ち着く。

由布院全般に言えることだが、スタッフは近所の人々のイメージ。完璧さ、都会の洗練を期待する人には向かない。大浴場は高温のため、かけ流しではないので注意。

ティールーム Nicol 限定のアップルパイが並ばず部屋で頂けるのが宿泊者の特権。ショップはセンス良く、柚子こしょう（青柚子の皮+青唐辛子のスパイス）は香り高く、お土産として外さない。滞在メインの由布院ステイで、イン14時・アウト12時は高ポイント。



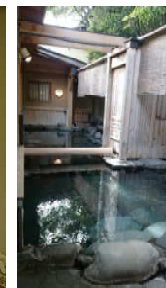


#### 4. 旅亭 田乃倉 たのくら

金鱗湖近し。御三家より、コストパフォーマンスの良い高級宿。

下の写真を見て欲しい。広い和風庭園にある露天風呂、この温泉が旅亭田乃倉の部屋風呂である。洗い場は内湯が別にある。料理も素朴さを是とする由布院温泉において、季節感を重視した華のある懐石。十五夜には、器が月見障子で、傍に大きなススキが立つ。観光の中心、金鱗湖にも近いのにこの広さ、少し古さも目立つが、御三家よりコストパフォーマンスとして分かりやすい。(知名度重視の方には不向き。)

旅亭田乃倉は、メゾネットタイプの別館・寛ぎの宿なな川、和風の山灯館と同じ敷地内にあり、それぞれの大浴場は行き来できるが、小さめで混雑するので行く必要を感じない。由布院の山々を借景にした広い庭、自分だけの温泉の方にはずっと浸かっていたい。





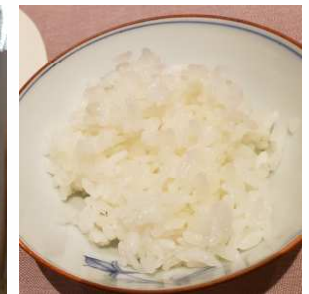
そうあんこすもす

## 5.草庵秋桜

クルーズトレイン「ななつ星in九州」の世界

JR九州が誇る豪華寝台列車「ななつ星」をご存じだろうか。予約倍率10倍、スイートルームの価格は100万円、乗りたくてもなかなか乗れない夢の列車である。2017年、草庵秋桜は、ななつ星のデザイナー水戸岡鋭治氏によりリニューアルされ、気軽に「ななつ星」の世界を味わうことができる宿となった。扉の組子細工、天井の草加文様(木への最新印刷技術)は精緻の極み。

大浴場、貸切風呂、客室露天も含め、源泉100%のかけ流し、40℃前後で入りやすく深夜でも適温。大きなテーブルはパソコン仕事に最適なサイズ。客室に籠って、時々客室露天に入りつつ、スライドを作ると、徹夜でも異常に捗る。食事も華やか。土鍋炊き、自家米のミルクプリンセスが艶々で美味。夜のおにぎりは御三家と異なりサービスではないが、注文の価値あり。由布院のお土産&食べ歩きストリート「湯の坪街道」から徒歩1分の好立地。







## 6.山のホテル 夢想園 むそうえん

絶景かな。由布岳を望む大露天風呂。

写真を見て欲しい。池ではない。風呂である。女湯「空海の湯」は150畳、男湯「御夢想の湯」も100畳。正面に阿蘇くじゅう国立公園の一端をなす1,583mの由布岳がそびえ立つ。荒涼とした山体を見つつ長湯をしていると、大概のことは忘れることができる。

由布院盆地の高台、広い敷地には石畳が敷き詰められ、露天風呂付きを含む客室や立ち寄り湯、食事処などが点在する。仲居さんが蹲居(つくばい)から打ち水をする姿も風情がある。

高級旅館なのに立ち寄り客にも優しく、化粧水などアメニティも充実。一部循環なので泉質マニアには勧めない。駅側から車で入る場合は、入り口がUターンに近い鋭角なので気をつけて。



## 7.御宿 田離宮 でんりききゅう

全室離れ。自家農園所有イタリアンレストランの系列。

2019年開業。部屋は綺麗、食事は華やか。部屋にかけ流しの内湯と露天が1つずつ。露天は由布岳ビュー。冷蔵庫のフリードリンクのみならず、ウォーターサーバーまで。田んぼの真ん中で生活道路がやや近いが、客のツボを押さえた、外さない宿。





## 8.ゆふいん時遊館

貸別荘のような気楽さ。主の柔らかい人柄が魅力。

由布院で珍しいpH9.1のアルカリ性、しっとり美肌の湯である。ロフト付きの部屋や和室、全てにかけ流し温泉。湯船が広すぎて、入る前に相当かき混ぜないと温度が一定しない。専門店のような揚げたての天婦羅に米がうまい。

1日限定3組。リピーターが多い。庭のブドウをワインにしてお待ちしておりますと言われたが希望日に予約がなかなか取れない。由布院は高級宿がいくつもあるが、半額でこの充足感。華美なサービスはないが、湯布院の目指す正解は、このコンセプト、価格帯なのではないかと思う。



## 9.旅の宿 ぽっぼ庵

湯布院でこじんまりと、ゆっくりと。

こちらもアルカリ泉。お部屋の半露天風呂も、桶風呂などの貸し切り家族湯もかけ流し。部屋食のできる和室は囲炉裏付。宿はこじんまりで、リーズナブル。気軽に泊まりたい時はアリ。ぽっぼ(電車)が見えます。



## 10.塚原温泉

マニア垂涎・激レア泉質 活火山に湧く秘湯。

別府温泉の母なる火山、鶴見～伽藍岳火口そばに自噴する。「酸性-含硫黄・鉄・アルミニウム-カルシウム-硫酸塩泉」というてんこ盛りの泉質で、鉄イオンの含有量は全国第1位、アルミニウムイオンの含有量と酸性度(胃液並み)は全国第2位を誇る。おかげで石鹸は泡立たず使用不可。なめると酸っぱい、皮膚病に効果ありだが、目に入ると痛すぎて角膜が心配になる。うっすら緑色、内湯以外はぬるめ適温で、強酸性なのに肌触りはサラツとしている。金属は外して入ること、山の上では真水は貴重なので浪費しないようにとの注意書きがある。内湯、露天、家族湯とも、いつも混んでいる。火口見学もできるが、標高800メートルの急坂は片道5分とは言えキツイ。今は小さな噴煙と硫黄臭のみなので、体力温存ならスルー。湯布院インターチェンジの手前の由布岳スマートICから出入りできるようになって便利になった。由布院市内まで15分、そのまま福岡への特急電車、バスに乗車できる。



## 別府八湯



別府は日本一の温泉・・・ということは難しい。もちろん別府温泉は 湧出量・源泉数ともに全国ダントツ1位であるが、日本一は、日本一古い、日本一広い、熱いなど、様々な議論を呼ぶ。地元で誇りを持つのは当然のこと。

私思うに、別府は最も市民に温泉が身近な温泉地ではないかと思う。団体旅行ブームの名残の大型旅館、観光客で大混雑の場所もあるが、別府の本質ではない。家に風呂はなく地区ごとの温泉に皆が集う(もちろん皆で掃除する)。または家に温泉が湧く。もちろん病院も温泉である。別府勤務時代、車に温泉セットを積んで、100円の市営温泉巡り(露天風呂もある)が日課だった。若いうちは、温泉に陣取る「ヌシ」の爺様、婆様に厳しい指導を受けることもあるが気を悪くしないで欲しい。別府市民の「家の風呂」である温泉で共に楽しむ。これが別府温泉の真の楽しみ方である。

10種類ある入浴用の泉質のうち、別府だけで7種もある。ゆったり癒しの由布院に対し、別府はアクティブに湯めぐりを楽しみましょう！逆に地獄めぐり(=変わり種の源泉めぐりのこと、血の池地獄、海地獄、坊主地獄など)は、すぐ飽きるので1、2個でストップです！



別府は竹細工も有名。右は学会記念品の名刺入れ。



## 1. 夢幻の里 春夏秋冬

マイナスイオンに包まれる秘湯

蛍が住むという山奥の川のせせらぎ、自然に包まれる秘湯。別府ICからすぐと交通至便でありながら、狭い道を少し進むと、静謐な別世界が広がる。男女別の露天大浴場と貸切湯が3つ。一番のお勧めは滝の湯。文字通り、2つの滝が降り注ぐ絶景。滝壺のしぶきを浴びながら、白濁のぬる湯に浸る幸せ。硫黄の香りが心地よい。洗い場は川の上で、シャワーはなく、自然分解できる備え付けシャンプー類のみ使用可。打たせ湯付の蛍の湯もある。

人気で予約は受け付けておらず、順番待ちの外出もできない。待ち時間のない大浴場を利用するもよし、川の流れを見ながら、温泉玉子を食べながら待つもよし。時間を忘れられる温泉である。



## 2. 奥みょうばん山荘

こだわりの温泉職人が管理する最濃の硫黄泉

別府明礬(みょうばん)の最奥、温泉マニアがマニアのために用意した手造り温泉。一人550円。大浴場はなく家族湯が3つ。1つは露天風呂付(2名から)で、最も湯の花(温泉成分の結晶)を感じられる。毎日入れ替えて掛け流しにも関わらず、湯の底に、硫黄が降り積もる。歩くだけで舞い上がり、自分の手も霞む。

温泉に集中して欲しいという湯主の意向で、騒がしい方はご遠慮などのルールがある。指輪など、金属は酸化するので注意。予約不可、シャワーはなく、ドライヤーは受付に2個、土産コーナーは燻製極まった温泉卵と、家の風呂で析出してしまう湯の花。やはり温泉は現地に限る。建築中も多く、トイレはポットトイレ。バケツの水で流すシステムなので、心配な方は手前の土産店等で済ましておくように。





### 3.竹瓦温泉

別府温泉の象徴、ノスタルジックな日常

明治から続く別府のシンボル。今の唐破風造りの建物は昭和13年の建築。住民が自宅風呂として愛用する内湯は110円。男女で泉質が異なる。シャワー・アメニティはなく、湯船も一つで、強烈にレトロ。若い頃は良さが分からなかった。

今回の再訪で印象は変わった。受付のお姉さんに、身内話をする常連さん。若い観光客に気さくに声をかけるおじさん。湯船では地元のおばあさんが、入浴マナーを丁寧に伝授する。うっかり怒られることもある。ノスタルジックな建物で100年近く、この「日常」が繰り返されたことに想いを馳せると、なんだかジワリと感動する。砂湯は室内で狭く1050円で、砂湯経験者には勧めないが、古い窓ガラスを見ていると、昭和初期にタイムスリップしたようで、人々のざわめきを感じる。観光地のはずなのに「日常」。これが、別府市営温泉の魅力である。

熱いので加水あり。砂湯は8人入替、予約不可、予約までの外出可。ドライヤーはロビーに1つ。空いている早朝がおすすめ。



### 4.鉄輪むし湯

せきしょう(菖蒲の仲間)の薬草蒸し湯

内湯で体を洗って、浴衣を着てスタンバイ。脱衣所の説明のお姉さんが皆の体調をみながら、テキパキと手順を説明。水道の水を一口飲むよう勧められ、蒸し湯へ。「せきしょう」が敷き詰められ、清々しい良い香り。温泉の噴気でスチームサウナ状態、潤う。直接床に体が触れないので75度でも熱くないが、枕だけ石製で激熱なのでタオル必須。

室の天井は腰を曲げて入る高さ、4人が精一杯のスペース。3ヶ所小さな窓があるものの、閉所恐怖症の方は無理かも。仰向け8分、後半にしたたる汗。時間が来たらお姉さんが知らせてくれ、内湯で汗を流します。内湯は洗い場4つの簡易的なもの。暑さでふらついている人はベランダデッキで涼ませてくれます。

服を着て外に出ますが、靴下は待って。外に無料の足蒸し湯。足を洗う水道も温泉。中の蒸し湯が熱くて無理な方もんびり、気持ちよく発汗できます。





## 5. ひょうたん温泉

サービス精神旺盛、全部入りの別府温泉ダイジェスト体験！

観光客向けの温泉である。否、大正時代から、ずっと観光客に人気であり続けた温泉である。1922年に作られたひょうたん型の岩風呂がまだ現役。観光ミシュランガイドで温泉として日本唯一の三ツ星を獲得。2019年、リニューアルでキレイになったが、歴史部分は大切に残されている。

温泉は全て掛け流し・毎日入れ替え。鉄輪名物の蒸し湯は高温、低温の2種類、露天の岩風呂も2種類、寝湯、檜風呂など。

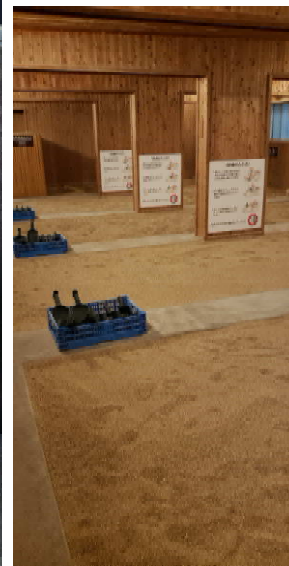
一番の名物は打たせ湯。普通立つか座って肩で湯を受けるが、ここの「瀧湯」は違う。湯が落ちる瀧壺はフラットで広く20cm程の深さ。ここにうつ伏せで寝そべり、顔だけ出して、肩から腰、お尻からふくらはぎまで、全身に瀧湯を浴びてマッサージ。滝は男湯19本、女湯8本。強さや当たり方が異なるため、好みの滝を選ぶ。

さらに、別府名物地獄蒸しが簡単に体験でき、砂湯もある。源泉蒸気で砂を温めており、イメージは岩盤浴の砂バージョン。砂掛けはセルフサービスなので最後に利き手が残るのが難点。時間制限がなく、入替制の湯の砂湯よりゆっくり汗がかける。

喉が乾いたら中庭で飲泉しよう。塩分を含みスポーツドリンク代わりに丁度よい。温泉たまごもどうぞ。ゆっくりできる無料の畳スペースもあり、全てを堪能すると半日かかる。昼間は団体客が大量なので避ける。25時までで営業で夜がゆったり。

泉質は一つなのに飽きないのは、それぞれ温度が違うから。元々、鉄輪の湯は沸騰直前。社長が開発したのが竹製源泉冷却装置「湯雨竹(ゆめたけ)」。竹箒の先を束ねたものに湯を溜らせ、温度を下げるという画期的？な発明で、加水も人手も不要。

総じて、お客様を安心して連れていける、地元民も時々行きたくなる、ミニ遊園地のような温泉である。





## 6. 別府温泉保養ランド

温泉西の横綱。良くも悪くも他では味わえない体験。

通称「泥湯」。日本の西の横綱に選ばれた温泉。別府名物坊主地獄、パラオのミルクィウェイ、泥で有名な場所は数あれど、適温の温泉は大変貴重で、古くから療養に用いられてきた。

コロイド湯、内湯、露天風呂があり、お薦めは断然露天風呂。但し、その露天風呂だけ混浴である。一瞬怯むかもしれないが、泥を含む湯は露天風呂の一番奥から沸き出ている。躊躇えば、本当の泥湯を体験できない。迷わず一番奥まで突撃しよう。

女性も大丈夫。泥は濃く、浸かると自分の体も見えない。男湯との間は木の棒で仕切られている。首まで浸かって中腰で前進。泥湯の供給口付近は、しっとりした柔らかい泥がふくらはぎの高さまで絡みつく。底の泥をすくって全身をホット泥パックするとお肌スベスベ。他では味わえない体験である。

但し、楽しめる人をかなり選ぶことも付け加えておこう。

- 1100円と高額。
- 泥湯なので清掃しにくく……という訳では絶対ないというほど、あらゆる部分がボロ…。髪の毛、虫は見ないことに。
- 女性は土日は避ける。観光客狙いの見せたがりのおじさんが複数男湯側にスタンバっている。無害。
- 女湯から露天風呂までの廊下の壁が、2ヶ所大きく欠けている。(時々おじさんが遠くから見ている)。長年問題になっているが改善する予定はなさそう。タオルでガード。
- 2番目の内湯は、泥も少なく、清掃も…なので避ける。
- 泥が少なく砂っぽくなっているタイミングがある。
- 硫黄の匂いが強烈でなかなかとれないが、大分県民はバスや飛行機で隣の人が硫黄の匂い全開でも気にしない。大丈夫。

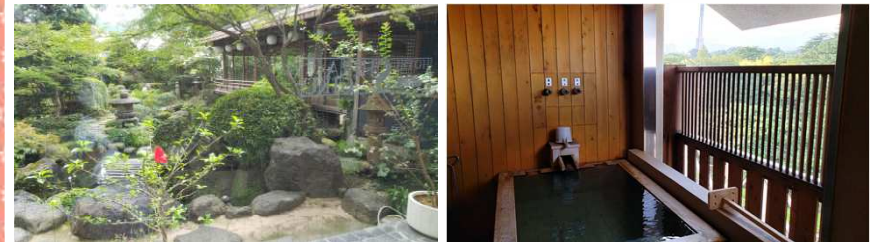


## 7. ホテル白菊

老舗ホテルの大浴場のスケール感は見事。

別府で間違いがないホテルのひとつ。写真上段の「楠湯殿」は、露天も内風呂も広大。中段の「菊湯殿」は岩風呂の奥に、洞窟風のミスト風呂がある。熱めのため加水ありだが、炭酸水素塩泉は肌にも良い。施設は古くなってきたが、タオル補充や清掃が行き届いている点は老舗の安心感がある。

「菊万葉」という露天付き特別客室は、メゾネットタイプで過ごしやすい。風呂は生活道路の騒音が凄いのので、大浴場を勧める。





## 8.杉乃井ホテル

別府を代表する大型エンターテイメントホテル。

経営が変わる毎に大分県民を心配させたが復活した。地熱発電のイルミネーションは頑張っている感は伝わる。大浴場の棚湯、水着で入れる温泉ザ アクアガーデン(写真上段)は、別府湾一望。循環ありで、温泉というより遊びに行くところ。学生や家族向き。スライダー付きプール、ボウリング、魚が泳ぐ水槽付きバイキング会場は子供が喜ぶ。お年寄りも広すぎて、館内移動が大変かも。ラ ベットラの落合シェフのレストランが直前予約で利用可能。



## 1.ゆの杜竹泉

大分大学から5分、バリエーション豊かな貸切湯。

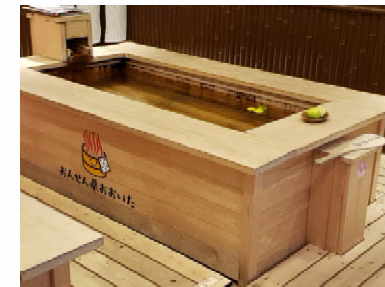
当直明けで疲れたら、写真上段の大浴場で温泉でゆっくり。貸切湯は、写真下段の洞窟+滝湯+寝湯のみならず、蒸し湯など、バリエーション豊か。座敷付きの金明竹の湯は、共同研究の先生、教授陣をお連れするのに丁度よい。プチ贅沢で2時間貸切にすると、旅行気分である。大学周囲に温泉がある幸せを実感する。



## 2.大分空港足湯

別府温泉からタンクローリーで毎日輸送、かけ流し。

おんせん県の玄関口、大分空港にはヒノキ風呂の足湯がある。時々かぼす湯になる。更衣室、手ぬぐい、ストッキングのまま浸かれるビニールの足カバーもある。到着時はバスが飛行機と連動して出発するので時間はない。出発時の利用がお勧め。





# 大分県広域温泉マップ



- 別府・由布院まで  
空港からは直行バス。大分駅からは、電車＋タクシー。  
複数人ならタクシー貸切またはレンタカーが便利。
- 大分駅⇄別府駅 12キロ  
車20分 タクシー4,000円 電車3駅12分280円 特急8分590円
- 大分駅⇄由布院駅 45キロ  
高速45分 タクシー13,000円 特急3駅45分950円
- 大分空港～直行バス 別府・由布院・大分(高速経由) 各55分
- 新幹線小倉駅～特急 別府70分 大分80分
- 福岡市内・福岡空港～直行バス 別府・由布院・大分 130-160分
- 大分空港HP定額タクシー・観光タクシー

2020.10月現在



## 温泉前に

- 成分が強い温泉も多いので、水分しっかり・無理しない。



## 別府温泉オリジナルマナー

- 湯船の縁は座るところではなく、頭を置くところ。
- シャワーがない施設も多く、かかり湯は湯船に入らないようお気をつけ下さい。
- 熱くても水を入れるのはNG。特に浜脇・永石温泉は熱湯好き。
- 地元密着の別府市営温泉・共同湯では厳しめの方もいて、ちょっと驚かせてしまうかも。実はフレンドリーです。



## 温泉グルメ

- 「温泉たまご」だけでなく、海老・ホタテ・とうもろこし・サツマイモなどの食材を温泉の噴気で蒸す「地獄蒸し」。とってもヘルシー。別府には気軽な体験施設もあります。地獄蒸しプリンも人気。土産品は、特産のカボスだらけ。





## おんせん県おおいた

大分県観光誘致促進室にロゴ使用許可を頂きました。

- ・ 文章は個人の感想です。
- ・ 写真なしの頁は写真許可がないものです。
- ・ コロナが落ち着く頃に情報が古くなる可能性があるため、最新の情報やアクセスなどは、宿名で検索お願いします。



### 編集後記

研修医時代、初めての全国学会で陳先生の「グルメバイブル」を手に、同期と街を闊歩したことを思い出します。今回、オマージュとして数年かけて大分の温泉を巡り(自腹;;)、**温泉本**を上梓しました。皆様に大分の温泉宿にご宿泊頂き、**医局長肝いりの足湯が並ぶ「温泉付の学会」**を楽しんで頂く予定が、Webのみになり残念です。

是非、落ち着いたら大分へ御来県頂くとともに、温泉ファンとして、**各地の学会温泉本も期待**しています。

表紙の絵は、私のラフを、アプリ「ココナラ」でイラストレーターの方に清書して頂き、教授にプレゼントしました。(今までの仕事で一番教授に喜んで頂いたかも。)

2020.10.2 大分大学 中野 聡子

(多項目PCR・先進医療普及を担当しています。詳細は大分大学HPまで)